

## 全国外国語部門活動報告

志村 昭暢

### 1. はじめに

令和2年に発生した新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、世界中の多くの大学で対面による授業が困難となり、非対面による遠隔授業が行われるようになった。令和2年度と3年度は北海道教育大学が外国語部門の取りまとめを行ってきたが、すべての期間がコロナ禍での部門運営となった。文部科学省(2020)によると、令和2年5月20日現在で対面授業のみを実施していた大学は26校(4.1%)、対面と遠隔を併用している大学が59校(6.8%)、遠隔のみで授業を行っている大学が778校(90.0%)と報告されており、ほとんどの大学で遠隔授業が行われた。遠隔授業は様々な形態が考えられ、多くの場合 ICT を利用したオンライン授業が採用されていると考えられるが、英語の教員養成に関する授業や英語授業において、どのように行われてきたのであろうか。本稿では令和2年度と3年度末に本協会外国語部門会員を対象とした質問紙調査を行い、英語に関する教科教育と英語授業におけるオンライン授業の方法について、コロナ禍1年目の令和2年度と2年目の令和3年度の傾向の違いについて報告する。

### 2. 調査方法

令和2年度は令和3年3月に、令和3年度は令和4年3月に本協会外国語部門会員を対象に質問紙調査への協力依頼のメールを送付した。質問紙調査は Google forms を利用してオンライン上で実施した。質問項目は東京大学(2020)の「オンライン授業に関するアンケート(教員版)」を基に作成した。令和3年度と4年度の質問項目は同一のものである。令和2年度は56名、令和3年度は39名の回答を得て、その中で初等(外国語活動・外国語科)・中等教育(英語)を担当している教員を参加者としたところ、令和2年度が53名、令和3年度が38名が分析対象となった。令和2年度は初等・中等の教科教育両方の授業担当者が26名、初等のみが13名、中等のみが14名であった。令和3年度は初等・中等両方の担当者が20名、初等のみが5名、中等のみが13名であった。

### 3. 結果

#### 3.1 オンライン授業の頻度と実施場所及び使用機器

「どの程度オンラインで授業を行っていましたか？」の質問について、令和2年度は「ほぼすべて」の回答が50.94%と最も高く、令和3年度は「8割程度」の回答が最も高いことが示された(表1)。全体のオンライン授業の頻度について、令和2年度と比べると令和3年度の割合が低い傾向が見られ、令和2年度から3年度にかけてオンライン授業の頻度が低下した可能性が示唆された。次に、「オンライン授業のために、主にどこから授業を行っていましたか？」の質問について、令和2年度・3年度共に「大学」との回答が最も多いことが示された(表2)。コロナ禍であっても大学に出勤して授業を行う教員が多かったことが示された。次に、「オンライン授業のために、どの機器を使って行っていましたか？(複数選択可)」の質問について、令和2年度・3年度共に「ノ

ート PC」の回答が最も多かった(表3)。使用機器の数が参加者数を超過していることから、複数の機器を組み合わせて活用していることが多いと考えられる。

表1 オンライン授業の頻度

	令和2年度		令和3年度	
ほぼすべて	50.94%	27	7.89%	3
8割程度	16.98%	9	21.05%	8
7割程度	7.55%	4	5.26%	2
6割程度	7.55%	4	10.53%	4
5割程度	9.43%	5	15.79%	6
4割程度	3.77%	2	0.00%	0
3割程度	1.89%	1	15.79%	6
2割程度	1.89%	1	13.16%	5
1割以下	0.00%	0	10.53%	4

表2 オンライン授業の実施場所

	令和2年度		令和3年度	
自宅	28.30%	15	18.42%	7
大学	69.81%	37	78.95%	30
自宅・大学同じ	1.89%	1	2.63%	1

表3 オンライン授業の使用機器

	令和2年度	令和3年度
デスクトップPC	28	21
ノートPC	39	23
タブレット端末	5	3
スマートフォン	1	0

### 3.2 授業形態

「授業の科目数について、実施形態ごとにお答えください(1年間を通した科目数)」の質問について、「Zoom等による生配信の授業(講義形式中心)」「同期型(講義形式)」、「Zoom等による生配信の授業(学生のグループワークも取り入れる)」「同期型(やりとり重視)」、「オンデマンド(事前に講義を収録した動画を配信)形式の授業」「非同期」、「資料と課題を提示する形式の授業」「資料提示」、「上記の複数の方法を組み合わせた授業」「組み合わせ」、「対面」に分けて回答を得た(表4-9)。令和2年度は「同期型(やりとり重視)」授業を43名が行っており、6コマ以上が最も多いことが示された。令和3年度は「同期型(やりとり重視)」と「対面」を30名が担当しており、「対面」の6コマ以上が最も多いことが示された。以上の結果から、令和2年度よりも令和3年度の方が対面授業の割合が増加した傾向にある可能性が示唆された。令和2年度の「同期型(やりとり重視)」に次いで多い形態は「対面」(32名)、「組み合わせ」(31名)、「同期型(講義形式)」(30名)がほぼ同数で、次いで「非同期型」(26名)であることが示された。令和3年度は「同期型(やりとり重視)」と「対面」に次いで多い形態としては「組み合わせ」(20名)、次に「同期型(講義形式)」(17名)、「非同期型」(14名)であることが示された。授業形態で最も少ないのは令和2年度・3年度共に「資料提示」で令和2年度が18名、令和3年度が7名のみ行っていた。以上のように、コロナ禍の令和2・3年度において、様々な形態で授業が行われていたことが示された。

表4 同期型(講義中心) 授業の科目数

	令和2年度		令和3年度	
6コマ以上	23.33%	7	17.65%	3
5コマ	10.00%	3	5.88%	1
4コマ	10.00%	3	29.41%	5
3コマ	16.67%	5	11.76%	2
2コマ	16.67%	5	17.65%	3
1コマ	23.33%	7	17.65%	3
N		30		17
該当なし		23		21

表5 同期型(やりとり重視) 授業の科目数

	令和2年度		令和3年度	
6コマ以上	34.88%	15	26.67%	8
5コマ	9.30%	4	6.67%	2
4コマ	13.95%	6	16.67%	5
3コマ	9.30%	4	10.00%	3
2コマ	13.95%	6	26.67%	8
1コマ	18.60%	8	13.33%	4
N		43		30
該当なし		10		8

表 6 非同期型授業の科目数

	令和 2 年度		令和 3 年度	
6 コマ以上	23.08%	6	7.14%	1
5 コマ	3.85%	1	14.29%	2
4 コマ	15.38%	4	21.43%	3
3 コマ	19.23%	5	7.14%	1
2 コマ	15.38%	4	7.14%	1
1 コマ	23.08%	6	42.86%	6
<i>N</i>		26		14
該当なし		27		24

表 7 資料提示型授業の科目数

	令和 2 年度		令和 3 年度	
6 コマ以上	33.33%	6	28.57%	2
5 コマ	5.56%	1	28.57%	2
4 コマ	11.11%	2	0.00%	0
3 コマ	5.56%	1	14.29%	1
2 コマ	11.11%	2	14.29%	1
1 コマ	33.33%	6	14.29%	1
<i>N</i>		18		7
該当なし		35		31

表 8 上記の組み合わせ型授業の科目数

	令和 2 年度		令和 3 年度	
6 コマ以上	35.48%	11	35.00%	7
5 コマ	6.45%	2	5.00%	1
4 コマ	9.68%	3	20.00%	4
3 コマ	16.13%	5	10.00%	2
2 コマ	9.68%	3	10.00%	2
1 コマ	22.58%	7	20.00%	4
<i>N</i>		31		20
該当なし		22		18

表 9 対面授業の科目数

	令和 2 年度		令和 3 年度	
6 コマ以上	12.50%	4	50.00%	15
5 コマ	12.50%	4	10.00%	3
4 コマ	0.00%	0	3.33%	1
3 コマ	21.88%	7	10.00%	3
2 コマ	21.88%	7	23.33%	7
1 コマ	31.25%	10	3.33%	1
<i>N</i>		32		30
該当なし		21		8

#### 4. おわりに

上記以外にも、授業形態別の自己評価や学習管理システムの使用形態、試験や模擬授業の方法、オンライン授業の準備時間やオンライン授業の利点・問題点・今後の改善点等についてのデータも収集しているので、今後の研究集会等で公表したい。

#### 引用文献

文部科学省(2020b).『新型コロナウイルス感染症の影響による学生等の学生生活に関する調査(結果)』  
[https://www.mext.go.jp/content/20210525\\_mxt\\_kouhou01-000004520\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210525_mxt_kouhou01-000004520_1.pdf)  
 東京大学(2020).『2020年度 S セメスター オンライン授業に関するアンケート結果概要(教員版)』  
<https://utelecon.adm.u-tokyo.ac.jp/questionnaire/faculty/>

(令和3年度全国外国語部門副代表・北海道教育大学教授)